

[http://www](http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/)

国際・地域連携センター ニュースレター 〈第13号〉

〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47

TEL:088-844-8555 FAX:088-844-8556

<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/>

編集責任者: 吉用武史

はじめに

大学を地域再生の中核に ～センターオブコミュニティ(COC)構想～

6月5日、文部科学省から2017年度までの大学改革の工程表「大学改革実行プラン」が発表されました。本プランに、地域の課題解決に取り組む大学を財政支援するCOC構想の実現に着手することが盛り込まれています。

COC構想とは、大学を地域再生の中核とするものです。具体的には、以下の事項が求められています。

- ・地域(社会・産業・行政)と大学との組織的な連携強化
- ・大学の生涯学習機能の強化
- ・地域のイノベーション創出人材の育成
- ・地域の雇用創造、産業振興への貢献
- ・地域の課題解決への貢献
- ・多様な活動を支える教育、研究水準の保証

COC構想において、優れた教育研究活動については、プログラムの策定経費やシステム整備費、人件費(TA、RA経費)等の支援が得られます。

詳細については文部科学省の以下ホームページをご参照ください。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/1321798.htm

目次

p1 はじめに

p2 地域連携・再生部門

Topic1. カツオ研究 最前線

Topic2. 秋の公開講座 学内公募受付中

p4 産学官連携部門

Topic1. 産学連携学会高知大会 過去最大規模

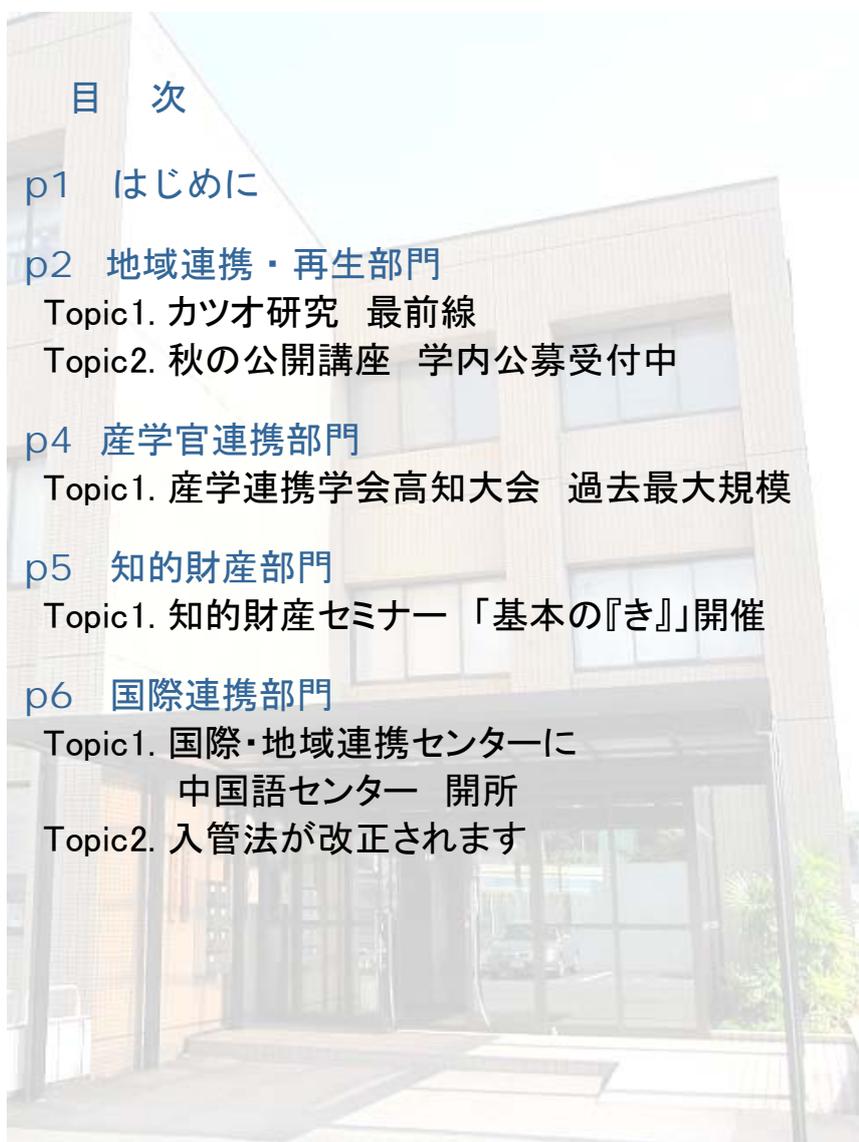
p5 知的財産部門

Topic1. 知的財産セミナー「基本の『き』」開催

p6 国際連携部門

Topic1. 国際・地域連携センターに
中国語センター 開所

Topic2. 入管法が改正されます



Topic 1. カツオ研究 最前線

～2012 カツオセミナー in 高知 開催～

高知大学と黒潮町との連携により設立した「日本カツオ学会」は、これまでに各地でフォーラムやシンポジウム等を地域と連携して開催してきました。いずれも地元を中心に200～300人もの参加者が集まり、カツオの産業・文化に貢献してきました。学会活動が広がる一方、カツオについての学術的な研究発表の場も必要になってきました。そこで、5月12日(土)、高知大学朝倉キャンパスメディアホールにて、「2012 カツオセミナー in 高知」を開催しました。

若林会長(愛媛大学南予水産研究センター副センター長)による主催者挨拶、高知県の東部長(水産振興部)による開催地挨拶の後、招待講演として東京海洋大学の和田教授にご登壇いただきました。この他、大学や企業等から6人の発表者に登壇いただき、県内外からの参加者約 80 人に対して、様々な研究発表が行われました。

【プログラム】

東京海洋大学 大学院 和田 俊 教授

「食品としてのカツオ節の未来を考える」

高知大学農学部 島村 智子 准教授

「高知県黒潮町の日戻りカツオに関する調査
—抗疲労物質含量とその効果について—」

高知新聞 福田 仁 記者

「カツオ不漁の背景」

愛媛大学南予水産研究センター 松原 孝博 教授

「カツオ一本釣りまき餌カタクチイワシの養殖に向けた取り組み」

マルトモ株式会社 土居 幹治 氏

「かび付けで変化するかつお節のだし感」

ヤマキ株式会社 かつお節・だし研究所 稲田 明宏 氏

「かつお節に含まれるイノシン酸について」

味の素株式会社 杉本 信幸 氏

「太平洋沿岸カツオ標識放流調査

～日本近海への来遊特性の解明～」



若林会長による開会挨拶



和田教授による招待講演

Topic 2. 秋の公開講座 学内公募受付中

～市民向けテーマお待ちしております～

昨年度に引き続き、秋の公開講座(第1群:一般教養・現代テーマ等)の学内公募をしています。次頁の開講提案書を国際・地域連携センター地域連携・再生係までご提出ください。開講期間は、原則9月～12月です。提案書様式は当センターホームページからもダウンロードできます(下記アドレス参照)。積極的なご提案をお待ちしております。

提案書:<http://www.kochi-u.ac.jp/~wwwlife/>

平成24年度「秋の公開講座」について (“開講提案書はこちら”)をクリックしてください)

平成 24 年度 秋の公開講座 開講提案書 第 1 群講座(一般教養・現代テーマ等)	
○平成 24 年度 秋の公開講座 第 1 群講座(一般教養・現代テーマ等)を募集します。 ○一般教養・現代テーマ等、市民向けに興味深いと思われるテーマを積極的にご提案いただければ幸いです。 なお、昨年度の第 1 群の充足率(受講者数/定員)が 27%と低迷したことに鑑み、本年度は、定員の半分に満たない場合は、地域連携・再生部門内で協議し、開講を保留させていただくことがありますので、あらかじめご承知おきください。	
提案者氏名	
所 属	
講座名(予定)	
講座の概要 (200 字～400 字程度)	
講座の内訳 : 題目及び講師名 等	第 1 回: (講師:) 第 2 回: 第 3 回: 第 4 回: 第 5 回:
*1: 基本的には 5 回の講義を想定しています。5 回以上または 5 回未満の講義をご希望される場合は、回を追加または削除してください。 *2: 各回によって題目や講師が異なる場合等には、その旨を記入願います。	
講師プロフィール	
*1: 受講者に周知します。また、広報の際にも使用させていただくことがあります。	
受講対象者及び講座定員	受講対象者: 講座定員: 人(特記事項:)
*1: 想定される受講対象者について、記入してください。 *2: 国際・地域連携センターが行う広報は、過去の受講者へのダイレクトメール、高知市内の銀行や量販店、自治体・関係諸機関等へ案内の配布及び本学HPでの周知のみとしています。予算の都合上新聞広告は実施していません。 *3: 上記の他、広報は提案者において実施していただき、受講者の確保にご尽力願います。 *4: 予定される講座定員をご記入ください。講座定員は、基本的に 30 人を考えていますが、受講対象者や設備・機器等の都合による増減は可能です。講座定員に関し特記すべき事項がある場合は、()内にご記入ください。	
日程	日時: ① 月 日() 時 分～時 分 ② 月 日() 時 分～時 分 ③ 月 日() 時 分～時 分 ④ 月 日() 時 分～時 分 ⑤ 月 日() 時 分～時 分
*1: 日程は、毎週同じ曜日で同じ時間帯の開講を想定していますが、必要に応じて変更していただいて結構です。出来る限り 10 月～12 月の間で終えるよう設定してください。 *2: 講義時間は、基本的に 1.5 時間としています。必要に応じて増減は可能です。	
会場及び必要機材等	会場名(教室等): 機材等:
*1: 原則として、朝倉キャンパス、岡豊キャンパス及び物部キャンパス内施設を想定していますが、必要に応じて会場を確保いたしますので、ご希望される会場を記入願います。 *2: 講義に際して、必要な機材等を併せて記入願います。 *3: 講義の際に配布資料がある場合につきまして、当センターで印刷等し、部数を準備することができます。	
受講料	6,200 円
*1: 本公開講座は有料となります。講義時間 5 時間を超え 10 時間以下での積算(6,200 円)となっております(国立大学法人高知大学における授業料等費用に関する規則)。5 時間以下または 10 時間を超える場合は受講料が変わります。	
特記事項	
*1: 本講座に関して、留意すべき点やその他ご意見等ございましたら、記入願います。	

Topic 1. 産学連携学会高知大会 過去最大規模

～第10回の記念大会 盛会裏に終了～

6月14、15日に開催された産学連携学会第10回大会は、多くの参加者をお招きし盛会裏に終了することが出来ました。

今大会の実行委員長である相良前学長による開会挨拶から幕を開け、第1部の尾崎高知県知事による招待講演「産学官連携による地域活性化」、受田センター長をコーディネーターとしたパネルディスカッション「土佐が考える地域活性化の方向性」では、445人ももの来場者となりました。

事 項	参加数
第1部(グリーンホール)	445 人
第2部(高知会館)	286 人
口頭発表	119 件
ポスター発表	48 件
オーガナイズドセッション	3 枠(20 件)
情報交換会	203 人



第2部は全国の産学連携、地域連携の実務者による活動事例や研究成果の発表となり、一般発表の件数としてオーラル119件、ポスター48件は過去最多でした。本学からも多くの発表がなされました。発表者の先生方に深謝いたします。

高知大学からの発表演題

「高知大学と自治体の連携事業（概要）」

国際・地域連携センター 石塚准教授

「高知市総合調査の多面的活用～市の計画策定から公開講座、教材作成へ～」

国際・地域連携センター 吉用特任講師

「黒潮町との連携による日本カツオ学会の設立」

国際・地域連携センター 吉用特任講師

「高知大学による地域活性化に向けた総合的アプローチ」

農学部 市川教授

「IT通信を用いた遠隔地に向けた定期運動指導の試み」

医学部 石田准教授

「産官学連携による省エネ型下水処理技術の開発研究」

農学部 藤原教授

「高知県長岡郡大豊町における産官学+民連携によるブルーベリープロジェクト事例」

農学部 浜田講師

「産学連携における高品質夏播き小麦の栽培技術の確立に関する研究」

農学部 矢野さん(学生)



第11回大会は岩手大学が当番校となり、平成25年6月20～21日に開催される予定です。

Topic 1. 高知大学・高知県共催 知的財産セミナー 開催 ～おさえておくべき基本の『き』～

日本弁理士会の協力の下、初めての試みとして、高知大学と高知県との共催による「知的財産セミナー ～おさえておくべき基本の『き』～ IN 高知大学」が6月20日(水)15時～17時、本学共通教育棟2号館(212番教室)で開催されました。

前日までの台風4号の影響もあって開催が危ぶまれましたが、当日は、本学からは、学生、教職員40名、また学外からも企業関係者等30名程度の参加・聴講をいただきました。知的財産に関する関心、興味の高さがうかがえました。

講師の三浦誠一弁理士による、特許権、商標権、意匠権、著作権等に関する基礎知識等について、具体の事例や商品(菓子)を交えた、ユニークな講演は参加者からも大変好評であり、特に就職を控えた学生にとっては、将来企業等で働くにあたって直面すると思われる知的財産に関する問題等の一端を知ることができ、大変役に立ったとの声をいただくなど、知的財産に関する意識付け、啓発の一助になりました。



Topic 1. 国際・地域連携センターに中国語センター開所 ～安徽大学(中国)との更なる国際交流へ～

平成24年5月9日(水)に大学間協定校である安徽大学(中国)の黄書記ほか5名、並びに安徽省と友好提携を締結している高知県から職員等を招き、中国語センター開所式を開催しました。開所式では、脇口学長、安徽大学黄書記、高知県大崎文化・生活部長から、中国語センターを通じて両大学の友好交流活動が発展することを願った挨拶が述べられた後、看板の上掲を執り行いました。また、5月10日(木)には、黄書記による国際学術交流講演会「中国古文字学の未来と国際交流」も実施されました。

中国語センターは、平成23年7月に安徽大学と締結した「高知大学中国語センター開設に関する覚書」に基づき、国際・地域連携センター内に設置しています。本年4月から当センターに受入れている安徽大学外国語学院の王永東講師は、中国語の教育をはじめ、中国留学希望者の相談に応じる等の業務を担います。本学からも安徽大学日本語教育センターへ井上智子客員助教を派遣しており、日本語の授業を担当しています。今後、両センターを通じて、学生の語学力養成のほか、留学支援活動、学術・学生交流等を行っていく予定です。

日時: 5月9日(水) 10:30～ 表敬訪問
11:00～ 中国語センター開所式
5月10日(木) 16:30～ 国際学術交流講演会(安徽大学 黄 徳寛 書記)



中国語センター開所式



中国語センターの看板上掲



国際学術交流講演会

Topic 2. 入管法が改正されます ～在留管理制度の導入～

「出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律」が平成21年7月15日に交付され、新たな在留管理制度が平成24年7月9日から導入されることとなりました。主な改正のポイントは次のとおりです。

- (1)「在留カード」が公布されます
- (2)在留期間が最長5年になります
- (3)みなし再入国許可制度が導入されます
- (4)外国人登録制度が廃止されます

(参考: 法務省入国管理局改正関連のホームページ http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/)

本件について、本学にて説明会を開催します。説明は日本語のみになりますが、配布パンフレットは英語・中国語・韓国語版があります。学内外、学生・教職員を問わず、外国人の支援、国際交流に携わる方々、国際交流に関心のある方々のご参加をお待ちしております

日時: 7月4日(水) 15時～16時

場所: 共通教育棟3号館2階323教室

講師: 高松入国管理局高知出張所長 吉原 利幸 氏